

附属機関等の名称 会議概要

1	審議会名	第6回交流学习センター施設検討委員会
2	日 時	平成 18 年 5 月 12 日 午後 7 時 ~ 午後 9 時 30 分
3	会 場	穂高会館第2会議室
4	出席者	益子委員長、草深副委員長、丸山委員、中島委員、細野委員、松尾委員、中田委員、山田委員、藤原委員、巻山委員、中嶋委員、細萱委員、小口委員、赤沼委員、曾根原委員、三枝委員、松田委員、細川委員(まちづくり推進課長)、松枝委員(社会教育課長)
5	市側出席者	小林次長、曾根原文化振興係長、財津文化振興係主査、丸山豊科教育課生涯学習係長、原野穂高教育課生涯学習係長、下里穂高教育課生涯学習係主査、那須野三郷教育課生涯学習係長、小穴児童保育課児童係長、小松孝彰総合支所健康福祉課長
6	会議概要作成年月日	平成 18 年 5 月 23 日

1. 会議の概要
 視察を振り返っての図書館についての検討
 その他

2. 協議

- ・安曇野市として計画すべきという方向性で進んでいても、市として何を指すかという事が話し合いされないまま、具体的な案ばかりが話し合われているような気がする。県外の人達から見た時、安曇野は塩尻や松本と同じではないはず。コンセプトがしっかりしているものをつくりたい。
- ・市民ホールは市にふさわしい大きなものが必要だと思う。美術館・博物館・資料館については、いろんな形の中で段々と整備していけばいいと思う。今まで各地域で検討されてきたものを、尊重して今後の計画の中で十分検討していただきたい。
- ・改築しても一番使いにくいだろうと思うのは、特に穂高・豊科の庁舎。何故かというエレベーター等が備わっていないで、設置したとしても老朽化が激しいので、難しいのではないかと感じた。誰もが集まれるような施設であれば、そこで思いやりの心の育成ができると僕は考えている。この思いやりの心の育成ができる、安曇野市独自の“全ての人に優しい施設”を作りたい。
- ・本館と分館の体制がどうかと煮詰まってきて、これはここで決定した、これは非常に大きな経過だと思う。今までのそれぞれの検討委員会の中で作り上げたものは、安曇野市としての視点ではなかったけれども地域の住民の願いを汲んでいたもの。皆で話し合ってまとめた過程は、委員は責任を持たなければならないと思う。図書館については、大事な点は二つあり、ひとつはユニバーサルデザインであること、もうひとつは塩尻や松本方式ではない安曇野のもの、美術館系統のものを増やして、豊科美術館を安曇野美術館としていいんじゃないか。顕彰館は穂高の場所の所でもっと考えていいんじゃないかと思う。
- ・具体的に中央図書館はワシントングラウンドに持っていくという案だが、交通条件。書架の冊数。全市の利便性が中央には必要。
- ・何故穂高かという事だが、既存の施設を中央図書館に転向するのはまず難しいという考え方。新しく建てるとすれば豊科、穂高、三郷で、その中のひとつを中央図書館にすればいいだろうと。立地だが、豊科の方がより好立地かなとは思っている。位置的にはそんな考えを持っている。ただ一番の決め手は敷地の余裕。穂高のここは14万㎡ある。それに対して豊科は芝生の所の他に武蔵野の小径がかかって若干潰れてしまう。中央図書館を配置すると蔵書が増える。余裕をもって周りの付帯施設も十分とれる所がいいだろう。豊科は確かに場所的には好位置にあるが、公園とか周りを浸食していくのは難しい。美術館などで培ってきたことを生か

した方がよいと思う。道路のアクセス。そういった条件を加味して提案した。

・市の施設は何故図書館だけが先行しなくちゃいけないのか疑問。図書館だけ緊急性のある施設なのか。それから、豊科の図書館は非常に施設が貧弱で古い、穂高に中央図書館を作ったら豊科も新規に建設することになると思うが、それでは二重の無駄な投資になってしまう。穂高のワシントングラウンドのロケーションは美術館のほうがふさわしい。私は美術館と郷土資料館をくっつけたらどうかと私はご提案した。図書館は、将来多くの人に利用してもらうには今のアクセスでは十分ではないだろうと思う。

・地域の分館は適切な規模で使いやすく親しみやすく自立したものを。三郷の場合は市の南部の拠点ということをお願いしたい。児童館は、現時点で図書館とどう整備すればよいか、一緒に考えて頂きたい。

・本館に関してだが、図書館は学生も子供も使う訳なので、もしあそこになるのなら絶対条件として交通機関を確保して頂きたい。往々にして子供の事をあまり考えていないように思う。分館を作るとしたら、新庁舎が出来てくると使える施設があると思う。

・この5つの地域で一番かわいそうな施設だったのが豊科と三郷だったように私は感じた。

・私は政治の中心は豊科、文化の中心は穂高になるのではと思う。また、ユニバーサルデザイン+地域性。冊数の問題。塩尻の吉田分館はユニバーサルデザインではないと思う。そういう事をしっかり確認して押さえていきたい。

・立派な中央図書館案には賛成だが、一番利用するのは地域の図書館だと思う。どんなに立派な中央図書館があっても、地域の小中学生はそこまで行かれない。分館中央図書館と分館のバランスを考えて欲しいと思う。

・アクセスの問題は、中央と地域のご利用方法を見ながら改善していけることもあるものではないかと思う。

・ワシントングラウンドは南に寄りすぎではないか。

・穂高だけで見るとそう思えるかもしれないが、交通事情等、既に合併したあかつきの事を考えて決めた経緯がある。

【主な確認事項】

・本館と分館の基本方針について

安曇野市全体として、約40万冊の蔵書が収蔵可能となるよう、以下のとおり本館と4つの分館を整備する。その際、本館については、約20万冊(開架15万冊、閉架5万冊)の蔵書が可能な施設規模を前提に、全市民が利用しやすく、かつゆとりをもって必要なスペースを確保し、また建物周辺に市民の憩いや交流のスペースの必要性も考慮し、市有地としてすでに確保されている安曇野市穂高、旧ワシントン・グラウンドに新たに建設することとする。

(1) 市内図書館の本館と分館の基本方針と重点収集資料について

	基本方針	重点収集資料
本館	<ul style="list-style-type: none">・市民の誇りとなり、市の文化的シンボルとなりうる図書館・周辺環境に配慮し、機能的でデザイン的にも優れた図書館・長時間利用可能な図書館・市内図書館サービスの中枢機能	<ul style="list-style-type: none">・市民全体の図書館として、調査研究・教養・レクリエーション・ビジネス・まちづくりなど幅広いニーズに対応しうる資料、情報・本館以外の分館等も支援しうる資料(市全体の体系的な資料収集を考慮)

分館	<ul style="list-style-type: none"> ・本館の分館機能 ・利用者が、分館の蔵書を自由に手にとって見ることができる図書館 ・規模・地域性及び機能に応じた蔵書構成の図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の図書館として、教養・レクリエーション・ビジネス・日常生活に役立つ資料、情報 ・地域の特性に応じた資料(特別コレクション)
----	--	---

(2) 市内図書館の本館と分館の配置

機能	サービスエリア	対象人口	整備場所	蔵書冊数		
				開架	閉架	合計
本館 (中央図書館)	市内全域	約 100,000	穂高・旧ワシントング ラウンド	150,000	50,000	200,000
分館 (地域図書館)	豊科地域	約 28,000		60,000	6,000	66,000
	三郷地域	約 19,000		50,000	5,000	55,000
	堀金地域	約 10,000		35,000	3,000	38,000
	明科地域	約 10,000	「ひまわり」内に既設	38,000	3,000	41,000
			合 計	333,000	67,000	400,000